

第3期横浜市こどもの貧困対策に関する計画策定の概要について

1 計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

現在、本市では、「第2期横浜市子どもの貧困対策に関する計画（令和4年度～8年度）」のもと、関係部局が連携しながら、こどもの貧困に関する対策に取り組んでいます。現行計画が令和8年度に終了することに伴い、引き続き、実効性の高い施策を展開していくため、次期（第3期）計画を策定します。

策定にあたっては、「横浜市中期計画 2026-2029」や「こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン」などの関連計画における課題認識や基本的な考え方を踏まえ、本市における総合的な貧困対策として取りまとめていきます。

(2) 計画期間

令和9年度から13年度までの5年間

(3) 計画の対象

生まれる前から大学等を卒業した後の自立に向けた支援を含め概ね20代前半までの、現に困窮状態にある、または保護者の疾病・障害やひとり親家庭であることなどをはじめ、様々な理由により困難を抱えやすい状況にあるこども・若者とその家庭を対象とします。

2 実態把握のための調査について

計画策定にあたり、本市のこどもの貧困に関する実態等を把握・分析するため、「こども・保護者向けのアンケート調査」及び「団体等へのヒアリング調査」を実施します。

なお、「横浜市こども・子育て基本条例」に基づき、こどもが意見を表明する機会を確保するという観点から、こども向けアンケート調査には自由意見欄を設けます。

(1) こども・保護者向けアンケート調査の概要（案）

目的	こどもや子育て家庭の生活実態に関する数値的データの把握
対象	① 市内在住の5歳児の保護者【12,000世帯程度（横浜市子育て応援アプリ「パマトコ」登録者）】 ② 市内在住の小学5年生、中学2年生、高校2年生とその保護者 【それぞれ18,000世帯程度（無作為抽出）】
調査方法	・上記①は、「パマトコ」を通じて回答フォームの案内を送付 ・上記②は、各世帯に回答フォームの案内を郵送 ※全てオンラインでの回答（無記名・同一世帯紐づけ）
調査項目	【こども向けアンケート】 生活・健康状態、学習状況、交友関係、日常的に利用する場所、生活満足度・将来展望、 困りごと・悩み など ※自由記入欄も設定 【保護者向けアンケート】 世帯の状況、生活・健康状態、就労状況、世帯収入、家計による制約、子育て等に関する悩み、 相談先の有無 など

(2) 団体等へのヒアリング調査の概要（案）

目的	日頃からこども・子育て支援に関わる団体等へのヒアリングを通じて、数字には表れにくいこどもや子育て家庭の状況、必要な支援等を把握
対象	ひとり親支援、こども・若者支援などに関わる団体を中心に、10団体程度
調査項目	困難を抱えている又はそれに近い状況にあるこどもや家庭の特徴、より効果的と考えられる支援の方法、支援を行う上での課題、関係機関との連携の状況・課題 など

3 策定スケジュール（予定）

令和8年7～8月	こどもの貧困に関する実態把握のための調査を実施
9月	第3回市会定例会において調査結果の速報及び計画の骨子案を報告
12月	第4回市会定例会において計画素案を報告
12月～令和9年1月	市民意見募集の実施
3月	第1回市会定例会において計画原案を報告 ～ 計画策定

【参考】「第2期横浜市子どもの貧困対策に関する計画」（令和4年度～8年度）における基本目標及び体系

◆基本目標

横浜の未来を創る子ども・青少年が、自分の良さや可能性を發揮し、豊かで幸せな生き方を切り拓く力、共に温かい社会をつくりだしていく力を育むことができるまち「よこはま」を目指して、子ども・青少年が健やかに育ち、自立した個人として成長できるよう、その生まれ育った環境に関わらず、教育・保育の機会と必要な学力を保障し、たくましく生き抜く力を身に付けることができる環境を整えます。

◆「横浜市子どもの貧困対策に関する計画」の体系 ()は主な取組

子どもの貧困対策の基盤	子どもの豊かな成長を支える教育、保育の推進（乳幼児期の教育・保育の保障、つながりを重視した教育・保育の推進 等）
主要施策1	気づく・つなぐ・見守る（保育所、幼稚園、学校、地域、区役所等の連携 等）
主要施策2	将来の自立に向けた子どもに対する支援（養育環境に課題がある子どもの生活習慣の習得 等）
主要施策3	生活基盤を整えるための家庭に対する支援（将来の自立に向けた子どもの学習支援の充実 等）
主要施策4	子どもの貧困の背景に留意した多面的な支援（困難を抱える若者の自立に向けた環境整備 等）